

## 病棟心電図のオンライン化に向けた取り組みと成果

◎波多野 詩織<sup>1)</sup>、青木 真美<sup>1)</sup>、加藤 好洋<sup>1)</sup>、宮崎 恵子<sup>1)</sup>、直田 健太郎<sup>1)</sup>  
聖隷浜松病院<sup>1)</sup>

【はじめに】当院における病棟実施心電図はオンライン対応しておらず、記録した心電図を全例検査室で製本作業を行っており時間外の業務量が増加していた。また医師からは、製本心電図を取り寄せ後では読影までの時間を要するため、電子カルテにて迅速な読影をしたいとの要望があった。このような状況を踏まえ、業務負担軽減や読影までの時間短縮を目的に、心電図のオンライン化に向けた検討を行ったためその取り組みと成果について報告する。

【取り組み】現状把握と取り組み評価のため、2022年度の各病棟の心電図検査数や製本に要する時間、コスト調査を行った。その後関連部署に提示し了承を得た後、オンライン化可能な心電計16台へ無線LANを接続し計15病棟の心電計をオンライン化した。運用開始前に医師、看護課長に説明し約1ヶ月間病棟で看護師に使い方を説明する期間を設けた。またオンライン記録ができない場合の対処法としてフローチャートを作成し、説明用資料として活用した。

【成果】オンライン実施率は、運用開始当初は約50%であったが、問い合わせがあった場合必要に応じて病棟へ行き

対応し、また心電図件数が多い病棟にオンライン送信の注意事項を配信したことで実施率は約70%まで上昇した。オンライン化に伴い、平均160件/月ほどあった製本作業は20件/月程度にまで減り、業務負担軽減やペーパーレスによるコスト削減を実現すると共に、バーコードによる患者情報の取得に運用変更したことで患者誤認防止にも繋がった。さらに電子カルテ端末があれば時間や場所を問わず波形参照でき、自動解析結果の参照や時系列での比較も可能となったため、利便性が向上した。

【まとめ】現在病棟オンラインの実施率は約70%であり今後100%にすることを目標としている。そのために今後も各病棟の実施状況をモニタリングし、オンライン記録できなかった場合はその原因を聞き取り、看護師にフィードバックすることで実施率の向上を図っていきたい。また2024年度より、検査室で実施している新人看護師心電図研修において病棟心電図のオンライン運用説明を開始したため、継続的に業務改善に向け取り組んでいきたいと考える。  
聖隷浜松病院 臨床検査部(053-474-2632) 波多野詩織